

連絡先入力

シラバス入力

國學院大學 平成30年度SYLLABUS

科目名	教員名
演習2(4)	野村一夫

開講詳細

開講キャンパス	開講時期	曜日	時限	開講学年	単位数
渋谷	通年	水曜	2時限	3	4

講義概要

授業のテーマ

前期: ラジオトーク、機械翻訳による50カ国語コミュニケーション、トランスメディア各論
 後期: 自前の理論を作る: 質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築

授業の内容

前期は3つのタスクをおこなう。4月は演習Iの成果物「論文の卵の産み方」シリーズ8冊を使ってラジオトークをおこなう。これはクラウド上に公開する。5月はGoogle翻訳による50カ国語コミュニケーションのレッスンをチーム単位でおこなう。50カ国語別の語学書は用意してある。6月はトランスメディア各論として、さまざまな領域とイシューにおいてトランスメディア環境がどのように状況を変えてきたか・変えつつあるかをチーム単位で調べ、徹底した議論をおこなう。そののちの7月に議論のエッセンスをパンフレットにまとめてプレゼンをおこなう。夏休みにはメディア系博物館を見学する。
 後期は、グラウンデッド・セオリー・アプローチによるオリジナル論文の一斉進行に挑戦する。領域限定的な理論をデータから直接自分が構築する。テーマは自由選択だが適切かどうかは個別に話し合う。そののちにデータ収集からゼミ論執筆までのワークフローを1段階ずつ全員で進んでゼミ論執筆まで行く。ゼミ論本体の印刷は未定だが、要約版はエディナビでおこなう。
 1月から3月にかけて、野村ゼミのシューカツ会議を順次おこなう。ゼミ活動をどう伝えるか、自己分析やエントリーシートのプラットフォームを各自作成する。

到達目標

- ・ゼミのテーマについてラジオトークができる。
- ・スマートフォン片手に50カ国語でコミュニケーションができる。発話するのはスマートフォン。
- ・トランスメディア各論で幅広い知識を探索できる。
- ・グラウンデッド・セオリーによってどんなテーマについてもオリジナルの領域限定的な理論を構築できる。
- ・クラウド利用で即座に研究内容を編集して冊子にできる。

授業計画

第1回	運営チームの再編。ラジオチームを新設する。 ラジオトークの収録方法についての最終実験。(基本的なことは事前に決めておく) 予行演習。本番までのタスクの確認。 次回のラジオトークの編成を決める。 ゼミ募集リーフレットチーム結成。 【準備学習 300分】 ⇒Workplace とWorkChatを駆使して事前に概要を議論しておく。全員が演習Iの成果物9冊を熟読しておく。自分の担当以外には不案内ということがないように予習する。
第2回	第1回ラジオトーク収録本番。 複数チームで同時に干渉なく収録できる方法を考えよう。 【準備学習 300分】 ⇒事前に「論文の卵の産み方」シリーズを熟読。チェックも入れて本番に備える。
第3回	第2回ラジオトーク収録本番。ワールドカフェもやる。これでいったん終了。 【準備学習 300分】 ⇒事前に「論文の卵の産み方」シリーズを熟読。チェックも入れて本番に備える。
第4回	機械翻訳の使いこなしレッスンその1。チーム単位でGoogle翻訳の動作を確認し合って使ってみる。 白水社の語学シリーズを1人1冊選択する。つまり1人が1カ国語を担当して、その言語について説明できるようにする。 【準備学習 300分】 ⇒Google翻訳のアプリをインストールして、自分なりに実験してみる。
第5回	機械翻訳の使いこなしレッスンその2。チーム単位で各担当言語について説明する。どういう特徴があるのか、どの地域の人たちなのか、その文化はどのようなものなのか。各言語そのものについて知る。 【準備学習 300分】 ⇒白水社の語学書を持ち帰り、言語の基本的なしくみを理解して説明できるようにしておく。パワポ使用で作成しておいて、Stockで共有しておく。
第6回	機械翻訳の使いこなしレッスンその3。チーム内で日本語も英語も使用しないで、ラジオトークをおこなう。すべて動画記録してクラウドで共有する。これでいったん終了。 【準備学習 600分】 ⇒Google翻訳アプリに習熟する練習をしておく。ちゃんと練習しておかないと本番でムダに時間を使ってしまうから、ここはしっかりやること。

第7回	<p>トランスメディア環境における各論研究開始。チーム構成時には企画提案できる(こんなことをやってみたい)。中範囲を概観できるパンフレット制作とプレゼンテーションが目的である。1チームあたり3人を基本とする。現時点で想定している各論は以下の通りである。 すべて「トランスメディア環境における」を付けること。 広告論チーム: MCRテラシーとは何か 物語論チーム: 近未来への物語のチカラ 旅行論チーム: こと消費としてのツーリズム 女子論チーム: ガーリー論 災害論チーム: 災害ユートピア 技術論チーム: 次のテクノロジー 聴衆論チーム: 発信するオーディエンス 映像論チーム: ドローン映像の視界 障害論チーム: インクルーシブ・デザイン 空間論チーム: サードプレイス FAB論チーム: ものづくりの変容 都市論チーム: クリエイティブ都市とは何か 以下の2チームは著者密着型 コーエンチーム: タイラー・コーエンのメディア経済学 ノーマンチーム: ドナルド・ノーマンのデザイン論 ドラッカー『マネジメント無修正版』図鑑 基本となる参考文献は各チームに指定する。 この日はチーム最初の打ち合わせをおこない、直近のタスクを整理しておく。</p> <p>【準備学習 300 分】 ⇒事前に各論を理解して選択を決めておく。各論の説明はクラウド上でおこなう。</p>
第8回	<p>アウトプット形式の確認。パンフレット制作を実践的目標とする。それを制作するためには、どのようなコンテンツが必要なかをチームで議論する。 そののちに調べてきた内容を各自がチームで報告して議論する。参考文献と論点を決める。 新書「論文の卵の産み方」シリーズと同様の項目を揃えること。これがパンフレット制作のリソースになる。</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒事前調査。素材や資料を揃えるだけ揃えておく。プリントして持参すること。Stockにも共有する。</p>
第9回	<p>チーム別にパンフレット編集会議。台割表作成。企画決め。役割決め。 予算の関係で規模は未定。最低限でも8ページのフルカラーパンフレットにしたい。 チャートのコンセプトを決める。</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒参考文献の熟読。引用文の確定。詳細はクラウド内で議論する。</p>
第10回	<p>編集作業継続。チーム単位で意見交換会。とくにチャートデザインに対する意見を求める。</p> <p>【準備学習 300 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第11回	<p>校了。</p> <p>【準備学習 300 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第12回	<p>振り返り。プレゼンテーション大会。</p> <p>【準備学習 300 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第13回	<p>成果物パンフレットお渡し会。振り返り。</p> <p>【準備学習 300 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第14回	<p>後期の準備。トランスメディア論の研究テーマの探し方。大きくしない。3段階に絞り込む。つまり「1975年のイメージ広告における資生堂とカネボウ」くらいに絞る。</p> <p>【準備学習 300 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第15回	<p>前期最終。データの探し方。生データが視覚的に収集できる範囲を考えて探す。目安はプリントアウトすると100枚以内に収まる程度のデータ。これ以上になるとコントロールできなくなる。たとえば「新宿ルミネのポスターにおける全コピー」であれば収集可能である。ポイントは限定した領域のテキストデータなり画像データなりを網羅していることである。逆に言うと、網羅できる範囲に区切って収集するということである。</p> <p>【準備学習 120 分】 ⇒研究テーマに対応したデータの収集。詳細はクラウド内で議論する。</p>
第16回	<p>後期授業開始。研究計画書報告会。</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒研究計画書を書く。書式は直前に指定する。詳細はクラウド内で議論する。</p>
第17回	<p>自前の理論を作る: 質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築(1)</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第18回	<p>自前の理論を作る: 質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築(2)</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第19回	<p>自前の理論を作る: 質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築(3)</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第20回	<p>自前の理論を作る: 質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築(4)</p> <p>【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。</p>
第21回	<p>自前の理論を作る: 質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築(5)</p> <p>【準備学習 600 分】</p>

	⇒詳細はクラウド内で議論する。
第22回	自前の理論を作る：質的研究法による領域限定的なデータ密着型理論の構築(6) 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第23回	ゼミ論ロングバージョン完成。コピー冊子版作成。 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第24回	ゼミ論プレゼン大会。 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第25回	ゼミ論短縮完成原稿をエディナビに投入。版下作成。 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第26回	ゼミ論校正。 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第27回	ゼミ論校了。 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第28回	ポートフォリオへの集約させ方 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第29回	ポートフォリオのプレゼンテーション大会 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
第30回	シューカツに対する野村ゼミとしての考え方 【準備学習 600 分】 ⇒詳細はクラウド内で議論する。
授業計画の説明	すでに2年生ゼミとして実質10ヶ月いっしょにやってきて、各種クラウドの用途開発と冊子制作のプロセスについてはコンセンサスと経験値を共有しているので、後半は「詳細はクラウド内で議論する」とした。2年の時と同じようにクラウド上では膨大なコミュニケーションをすることになる。これこそが能動的学習の名に値するものであることを意識しながら取り組んでほしい。

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

受講に関するアドバイス

演習1のシラバスには次のように書いておきました。みなさんとともに切り拓いてきたスタイルをそのまま踏襲します。以下引用です。
野村ゼミでは「授業の作品化」を推進しています。「作りながら学ぶ。学んだことを作品として形にする」ということです。それを短時間で実現するために複数の最新のクラウドサービスを駆使します。情報共有や細かい詰めの議論などは、すべてクラウド上でおこないます。このバックヤードにおける膨大なコミュニケーションこそが能動的学習の名に値するもので、表には出ませんが氷山の海面下の部分のように、それこそが海面上に出た成果物を押し上げるのです。

成績評価の方法・基準

評価方法	割合	評価基準
平常点	100%	ゼミ活動への能動的関与と4つの成果物を中心に評価します。4つの成果物とは、ラジオトーク、機械翻訳による50カ国語コミュニケーション、トランスメディア各論パンフレット、自前の理論を提唱できるゼミ論が評価対象になります。相対評価ではありません。

※すべての授業に出席することが原則であり、出席自体を加点の対象とすることはできません。

注意事項	本学では「すべての授業に出席することが原則である」と決めています。この授業もそれに則って評価します。どうしてもクラウド上のバックヤードのコミュニケーションに関与していただかないとゼミは進行しないことがわかっているため、積極的な関与を評価します。
------	--

※履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

教科書・参考文献等

教科書

- ①ティム・ブラウン(千葉敏生訳)『デザイン思考が世界を変える：イノベーションを導く新しい考え方』早川書房、2014年、700円+税。ゼミの基本的な考え方。
- ②ウィリアム・リドウェルほか『要点で学ぶデザインの法則150』ピー・エヌ・エヌ新社、2015年、2000円+税。情報デザインを含むデザインの基本事項を網羅した集密度の高い本。デザイン系は卒業までこの1冊で済ませる。
- ③ウヴェ・フリック『新版 質的研究入門』春秋社、2011年、3900円+税。7月以降はこれにそって研究を進める。フリックの本は、質的研究のすべてを網羅したもので、かゆいところにも手が届く解説書である。大学院レベルかもしれないが、この本でほぼ解決できる。統計学が必要な量的研究や、図書館必須の文献研究に自信がない人は、このさい質的研究に特化して身につけて下さい。

参考文献コメント

前期の参考文献リストは、直前に配付する。

参考になるウェブページ

社会学系サイト「ソキウス」<http://www/socius.jp>
 ブログ「野村一夫の生活と意見」<http://www.nomurakazuo.jp>
 Facebook(友達限定につき友達申請して下さい) nomurakazuo
 Facebookページ(公開) sociorium
 Twitter(公開) @nomurakazuo
 Instagram socius.nomura

オフィスアワー

月曜・火曜11:00-13:00 土曜14:30-16:00
その他、随時受け付けます。
R707FF@kokugakuin.ac.jp
Messenger: nomurakazuo
その他メジャーなSNSであれば、たいていアクセス可能です。

[戻る](#)